



# 根来山げんきの森倶楽部

令和5年3月作業日誌

**活動日：令和5年3月19日(日) 9:30～15:30 天気：晴れ 倶楽部員：42人**

桜の花はほとんど散ってしまいましたが、春は色とりどりの花が次々と咲き、私たちの気持ちを和ませてくれますね。さて、今回の作業は倶楽部員と一般の参加者の方が協力して植樹祭を行いました。小さな苗木の成長が次の世代に受け継がれていくのが楽しみです。

## 炭焼き

温度が上がらない「なんでだろう？」

青空の下、参加者7名で炭出し作業を行いました。

今回取り出す炭は3月1日(火入れ)～9日(窯止め)迄、9日間の炭焼き期間を要しました。いつもより2～3日長くかかっており、且つ途中窯の温度もなかなか上がらない状態が続き、「なんでだろう？」と不安・思考回路を巡らせますが、答えは見つからず…、炭焼き作業の奥の深さを感じさせられました。

作業の流れとしては ①窯内の炭をコンテナに移し外に出す作業～ ②窯内から取り出された炭を10cm位にカットして袋詰めする作業～ ③最後に袋詰めされた炭を1袋10kgに計量し完成品として保管 等が大筋の作業です。参加の皆さんは手慣れた方ばかりで、自ずと役割分担も決まり、早々に持ち場に就いて作業開始、流石という感じでした。今回はいつもより参加人数も少なかったため、午後からも引き続き炭出し作業を行い終了となりました。

出来上がった炭は10kg入り25袋で総量250kgとますますの出来でした。少し時間に追われましたけど、毎回のコーヒータイム・ランチタイムはホッと一息、和やかな楽しいひと時でした。皆さんお疲れさまでした。(坂本 幸三)



## 植樹祭 ①

(午前の部)

前日、雨が降りましたが、当日は朝から雲一つない快晴となりました。この日、朝10時から、3組7名の一般参加、クラブ会員と合わせ、計15名ほどの参加者で、植樹作業に取り組みました。この日、森に植えたのは、30～50センチほどの大きさになった、もみじの苗木でした。聞くところによると、これが一人前の成木となるには、20年以上かかるとか。今、紅葉を見せるもみじは、なんとありがたいのかと実感します。

本日、植樹を行う林は、なだらかな斜面にありました。この季節は周囲の木々の葉っぱも少なく、豊かな光が差ししてくるのですが、繁茂期になり周囲の樹木の葉が生い茂ると、日陰になり、日当りもだいぶ遮られてしまうようです。今日植える、もみじの木は日射量がやや足りなくとも、しっかり育つとか。土地と植物の関係、なるほど、勉強になります。

次に植樹に適した地点選びですが、ここでは周囲の樹木の根が入り組んで邪魔していない場所を選びます。地点を決めたら、鍬で掘っていきます。前日、降雨が少しあったおかげか、土が適度に水分を含んで、ふっくらとしていました。10cm少々掘り進めると、土がさらに細かく柔らかくなったことがわかりました。その土に混じった、葉っぱや根など有機物を極力取り除いていきます。その理由として、それら有機物は腐りやすく、根を腐らせてしまうということでした。そのきれいになった土は、「芯土(しんど)」と呼ぶようです。

土を手で一つかみ。座布団のような形をつくり、そこに苗木をそっと置きました。根はそのきれいな土を集めて埋め、表面に近づくとつれ腐葉土などで固めていきます。植えた場所が水たまりにならないよう、慎重に周囲を足で踏み固めておきました。それぞれの苗木が40～50センチくらいの距離、三角形をつくるよう3本植えておきました。そこに竹の杭を立て、日付を書くなどして目印とします。その三角形に植えたもみじを、10か所ほどに植えて終了。苗を扱う慎重さも相まってか、少し汗ばむこともあった朝の作業でした。

帰りは散策しながら、ぽつぽつと見える山桜を眺めることができました、春が近づくのを感じながら、今日植樹した木もぐんぐん伸びていってくれないかな、と、大変待ち遠しいです。山の一角に自分が植えた木が、成長を待っていること、その一角があることだけでも特別な思いがします。

(井上浩孝)



## 植樹祭②

(午後の部)

午後は、植樹作業を行いました。場所は、スカイラインの一番上(と思う)まで車と徒歩で行きました。谷越えで管理棟や駐車場が望め、その先には岩出の町が見え、げんきの森の広さを体感できました。

みんなで手分けして植樹作業を行いました。伐採した樹木が折り重なり、これをかき分け地面が見える状態にするのにひと苦労でした。それでも何とか植樹を行い、作業は無事に終わりました。

順調に育つのが楽しみです。(佐藤広明)

## 植樹祭③

前日の雨も上がり、絶好の天气に恵まれた植樹祭。げんきの森ではちらほらヤマザクラも咲き始め、ビシャコ(ヒサカキ)の花の香りが充満していました。

Aさん率いる私たちのチームはヤマザクラとタマミズキの苗木を植える作業です。

テラーに苗木や鍬、スコップなどを積み込み植栽地に出発。まずは駐車場のそば、バリアフリートレイル入口の斜面から植え始めました。ベテラン倶楽部員の方も多く、急な斜面

も物ともせず次々と苗木が植えられていきます。そこが終わるとアジサイ広場の近く、柵を乗り越え歩道の下にも植樹。午後からは管理棟の裏の斜面にヤマザクラを植えて、ヤマザクラ 39 本、タマミズキ 20 本の植樹完了です。皆様お疲れ様でした。

ヤマザクラは 1 本 1 本が個性的。その花の色や形、新葉の色など微妙に異なります。秋の紅葉も美しいです。秋の終わりには、タマミズキの雌株に赤い実がびっしりと生り、その実をついばみに鳥たちが集まります。今日植えた木々が少しずつ大きくなり、げんきの森に新しい景色と環境を作り出していってくれると思うと楽しみが増えます。(宗由美)





今年は桜が咲くのが早く、おまけに花の持ちはあまりよくないようであわただしく散っていきます。すでに葉桜になっている個体もたくさんあります。

ところで、げんきの森にサクラが増えてきたのかという声を時々聞きます。クスノキなど常緑の樹木を駆除し明るい森づくりを行っているので、ヤマザクラが増えて来ても不思議ではないのですが、花が目立つと感じるのは個体数が増えてきたからではなく、ひとつひとつのヤマザクラが大きく育ってきてよく目立つようになってきたからだと考えられます。

あちこちのヤマザクラがよく目立つ巨木に育ったためサクラが増えてきたように見えるのでしょう。

でも、視界を遮る常緑のクスノキも負けずに大きく育ってきています。これからも少しずつでもいいので、クスノキの駆除を続けていきたいものです。

岡田 和久



編集：谷藤 秀子